

定期演奏会

第13回  
定期演奏会

慶應義塾高等学校・女子高等学校 楽友会  
第13回定期演奏会



ごあいさつ

ようやく春の訪れを感じる季節となり、私達は第13回定期演奏会を迎えることになりました。

今宵はお忙しい中を御来場いただきまして誠にありがとうございます。

私達は、この1年”合唱の素晴らしいとは何なのか”ということを考え、又合唱することによって生まれるお互いの心のつながりを求めて、一生懸命練習を重ねてまいりました。

私達の合唱を、力強く楽しいものに、そして何かを訴えかけるものにしたい、という願いをこめて演奏をおくりいたします。

今宵の演奏をお聴きになって、私達のそうした努力を少しでも汲みとっただければ幸いに存じます。更にこれからも前向きの姿勢でより一層頑張っていきたいと思っております。

最後に、常日頃御指導いただいている諸先生、諸先輩、そして快くピアノ伴奏を御承諾下さった金井信さんをはじめとして、私達の面倒をみていただいた方々に心より御礼申し上げます。

部員一同

## 第13回定期演奏会によせて

慶應義塾高等学校長 辻 岡 昭

各個人の多様なニュアンスが入り交り、折り重なって全体として複雑であっても、そこに調和がある世界は豊かさがあり、エネルギーを生じる。

一例として学校という社会を考えてみても、そこにはいろいろの考え方をする人が居り、性格もまた多様である。従って相互に信頼と理解とがなければ人の和は得られないし、調和のある社会は生まれない。生徒と教職員との間の信頼関係、教職員同志の意志の疎通、生徒間の相互理解の存在が、学校が、その本来の使命を十分に果してゆくための条件である。

和が基盤として存在するとき、たとえ表面は静かでも、うちにエネルギーを横溢した社会が生まれる。この種のハーモニーの世界の一つを端的に実現できるのが音楽の世界であり、また音楽を通して我々はこの種の和の精神を自己の中に生長させ得るであろう。

日頃の練習の成果をこの演奏会に結集されることを切望する。

慶應義塾女子高等学校長 中山 浩二郎

厳しい寒さに打ちのめされるような日々が続く時、この挨拶文を依頼されると、毎年のことながら、春の息吹を感じ、来るべき日々への新しい希望に、明るい意欲が全身にみなぎってくるのをおぼえます。

楽友会第13回定期演奏会を心からお祝い申しあげます。今日の日に備えて、たゆみない練習に明け暮れたこの一年間の精進と努力とが、きっと美事な旋律と和声となって会場にひろがり、聴衆を魅了することでしょう。

「音楽の表現するものは、永遠で無限な、かつ理想的なものである。それは……、激情、愛情、または憧憬そのものである」と、リヒアルト・ヴァグナーが言うように、個々の自己表現や、好悪感、快・不快等を超えた共感にこそ音楽的美の本質があるように思います。

それを表現する為の混声合唱、その恵まれた機会を持つことのできる幸せを感謝しつつ、日頃鍛えた力を存分に發揮して下さい。

この演奏会の成功を祈り、ご来場の皆様に深く敬意と感謝の意を表してご挨拶といたします。

慶應義塾高等学校楽友会部長 岡田忠彦

楽友会は、本校の創立とともに発足し、やがて30周年を迎えるとしています。

そのなかで一貫していることは、生徒のなかから指揮者をたてて自分達の演奏をつくりあげてきたことです。指揮することは、たとえ少人数の合唱でも1、2年の修練で、そうたやすくできるものではありません。

しかし、無限の可能性をひめた青春のひとときを、指揮者は勿論、部員みんながもりたてて、1つの演奏をつくりあげてゆくことには喜びも苦しみもあり、クラブ活動の意義もあると確信いたします。

さて、そのようにして生まれた今年の演奏がよりよい演奏であってほしいことは当然ですが、やることに意義があるのだと心の中でつぶやきながら、彼らの青春の1ページを飾るにふさわしい演奏会となることを、毎年のことながら、ひそかに願っています。

慶應義塾女子高等学校楽友会部長 今井敦子

今年も又、定期演奏会の日がめぐってきました。もう、13回目にもなりました。

毎年メンバーは変わってゆきますが、長い間の積み重ねのうちに、自然に楽友会の音色が生まれて来た様な気がしています。

両高校の行事や試験期間の間を縫っての練習で、なかなか思う様に行かないこともありますけれど、まじめに取り組み、一生懸命に唱って来たことによって、部員はきっと精神的に貴重な収穫を得て今日の演奏会にのぞんだことと思います。

どうぞ、ごゆっくりお聴き頂きまして、御高評賜れば幸せでござります。

# PROGRAMME

## Iステージ 混声合唱組曲「千曲川の水上を恋ふる歌」

水上 藤田義雄 作詩  
若き日 小山竜三 作曲  
落石に搏たれしもの  
牧歌を唄ぶ  
水上は母のふところ 指揮 阿波田 尚

## 混声合唱組曲「北への回帰」

磁石 小林純一 作詩  
真昼幻想 磯部徹 作曲  
北限の花  
白南風のうた  
憤怒の竜 指揮 高橋治之  
春への期待 ピアノ 金井信

———— 休 憩 ————

## IIステージ 「フォスター歌曲集」より

1. 故郷の人々 清小林秀雄 編曲
2. おおスザンナ
3. 金髪のジェニー
4. 草競馬
5. ケンタッキーのわが家
6. 夢路より 指揮 阿波田 尚

———— 休 憩 ————

## PROGRAMME

### IIIステージ 混声合唱組曲「おかあさんのはか」

語りの音楽

古田 幸 作詞

じんちょうげ

中田 喜直 作曲

すきやき

おかあさんのはか

おにいちゃんの成績

白いカーネーションはいや

バイオリン

雨のふる日

知能テスト

七夕

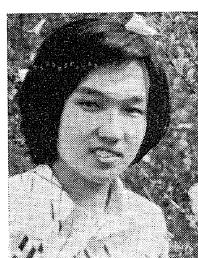
シーツ

おくり火

指揮 高橋治之

教会の神様

ピアノ 金井信



ピアノ伴奏者 金井信さん

一昨年慶應義塾高等学校を御卒業になり、現在は同大学文学部に籍をおくかたわら、毎晩夜の学校へ通ってピアノのお勉強中とか。

第11回演奏会の時にも指揮に、テナー・ソロにと大活躍。音楽のことなら何でもまかしあけという、私達にとっては大変心強い先輩で、今回のピアノ伴奏も快く引き受けて下さいました。

ヴォイストレーナー 今井敦子さん

昭和48年度、武藏野音楽大学大学院を御卒業、その後フランスへ留学され、現在は女子高で音楽を教えていらっしゃいます。

御多忙にもかかわらず、貴重な時間をさいて私達に発声や合唱の基礎を教えて下さっています。部長として、練習以外でもいろいろ適切なアドバイスをくださり、優しくて話のわかるステキな先生です。



## 第1ステージ

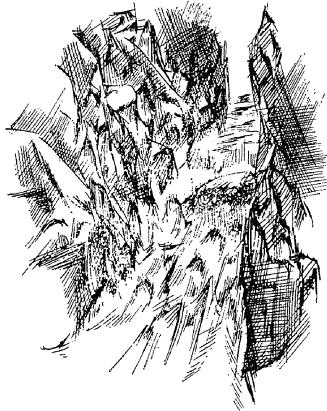
### 混声合唱組曲「千曲川の水上を恋ふる歌」

この曲の作曲者、小山章三氏は、アマチュア合唱団でも気軽に歌える易しい曲を多く作曲し、また、西洋のハーモニー、リズム、音階等をとり入れた日本的な抒情的作品も数多く残しています。

「千曲川の水上を恋ふる歌」は、昭和39年、小山氏と詩人の藪田義雄氏が、千曲川の水上を探りあてるため、信濃川上村付近を訪れた際に出会った事などを5曲から成る組曲にしたもので、全体を通じて、四分音符=69~92という落ちついだテンポを貫いています。

#### 第1曲 「水上」

金峰山と甲武信ヶ岳という2つの山中にみなもとを発している千曲川の水上を簡単で、すっきりとした和音で歌い上げます。



#### 第2曲 「若き日」

#### 第3曲 「落石に搏たれしもの」

2曲とも同じ調性で書かれており、続けて演奏されます。甲武信ヶ岳から馬越峠への山道で出会った情景が描かれ、第3曲では、合唱のハミングを伴奏にバリトン・ソロが歌います。

#### 第4曲 「牧歌を唄ぶ」

信濃の山中にみなもとを発した千曲川が、北佐久や南佐久の広々とした平原を下る様子を明るく、晴々と歌い上げます。

#### 第5曲 「水上は母のふところ」

千曲川は、越後の国に入ると信濃川と呼ばれるようになり、やがて日本海に川口をひらきます。この終曲は、そんな川の生命を歌っているもので、8分の6拍子の単純な和音で進行していくうちに、ベースから始まるフーガとなり、力強く全曲を結びます。

1 水上  
その水を手に掬ひ  
その水に指を浸して、  
われは知る  
水のこころを。  
天霧らふ甲武信ヶ岳の  
苔伝ふ水の滴り、  
集まりて流れとなるを。  
水上はかくも遙けし、  
水上はおぼおぼしくて  
ひとすぢにわが恋ひわたる、  
わが生のみなもとなれば。

2 若き日  
若き日を捧げつくして

歎きしほ、  
そも、なになりし、  
道のべに薄氷はりつめて  
わが踏めば  
はりはりと音たつる、  
はりはりと音たてて割るるぞも。

3 落石に搏たれしもの  
落石は止むるすべなし。  
落石に搏たれしものの  
血に染みて立てるきはにも、  
いと小さく、いとあはれるな  
これの世のこれのいのちか、  
観音のましますからは  
われとわが願ひに生きん。

4 牧歌を唄ぶ

北佐久や南佐久、  
そのかみの望月の駒、  
牧歌を唄ぶよすがに、  
流れゆく流れのままに、  
みすずかる信濃の国の  
空青く人を哀しむ。

5 水上は母のふところ  
千曲川ながれ尽きせず  
その末は海へくだりて、  
雪かづく島と対へり。  
あな、あはれ、遠き水上、  
しゃくなげのうす紅さして  
咲く花の人を恋ほしむ。

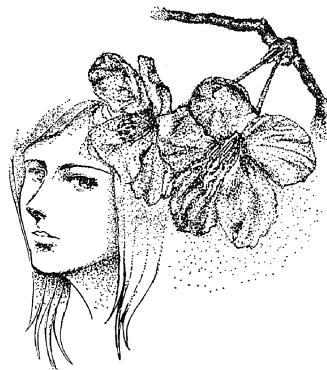
水上は母のふところ、  
水上は母の香ぞする。

## 混声合唱組曲「北への回帰」（6章）—1971年—

傍題に1971年と附記されているのは、これを作る動機に“沖縄復帰前夜”という歴史的な命題があったからだそうです。しかし、それは作品を作る上での根底にあった問題で、《北への回帰》自体は、この方向感覚をイメージ化した作品です。

全6曲から成るこの組曲は、全体的にみると、明るさと暗さ、単純さと複雑さとが入り混じったようなおかしな曲ですが、力強く訴えかけてくるテーマの一貫性には私達の心も動かされます。

ですから、この曲は、全曲演奏されることによってはじめて一つの芸術作品となるのです。皆様も本日お聞き下されば、この組曲全体の持つテーマのおそろしさが、十分おわかりいただけることでしょう。



### 第1曲 磁石（序章）

これから始まろうとするものへの不安と期待。こまかく揺れながら北をさぐっている青い針一。女声で歌い出されるこの序奏は、すぐに無伴奏男声合唱にひきつがれ、不安な感じのする混声合唱の響きの中に消えていきます。最後のピアノの響き、なんとなく“沖縄の海”，という感じがしませんか？

### 第2曲 真昼幻想

——指宿の海よ

真夏の陽にかがやく

原色の太平洋よ

その果ての あまりの遠さに

その青の あまりの青さに……

青い静寂をただよう微粒、プランクトン、そして沖をうねり流れる黒潮。静けさと烈しさとを、合唱とピアノはいっぱいに歌い上げます。ソプラノの絶叫(?!?)がいたる所にありますのでお楽しみに！

### 第3曲 北限の花

8分の12拍子のリズムに乗って、女声と男声のかけ合いで流れるように歌い出され、それに続いて、「旅人よ、あなたがもし、北への旅を続けるなら……」と、レシタティーヴォ風に歌われます。この曲で前半の3曲がしめくられます。

### 第4曲 白南風のうた

白南風については、歌に「しらはえと、名さえみやびに、白浜の、浜に吹く風……」と説明されている通りです。本当に美しい呼び名だというより、詩人の言葉の雅（みやび）という感じがぴったりする、大変おおらかでのんびりとした名曲です。

### 第5曲 憤怒の竜

憤怒の竜、台風、この巨大な怒りを表現するには人声、ピアノとともに膨大なエネルギーを必要とします。f, ff の連続、広い音域、1つのパートが2つに分かれる分唱（つまり八部合唱になるわけです）もたびたび要求されます。しかし、この憤怒の竜が通りすぎた後は、「日本列島にみのりの秋が訪れ、空が真青に、澄みわたることを！」と、雄大に、すがすがしく結ばれます。

### 第6曲 春への期待

大曲「憤怒の竜」で終わらないところがこの組曲のミソです。この終曲は今までの5曲を総合的にイメージ化したもので、最後は、序章の冒頭の和音で「青い針、青い針よ」と繰り返して全曲を静かに結びます。

## 第2ステージ

### 「フォスター歌曲集」より

1. 故郷の人々	訳詩 勝 承 夫
2. おお スザンナ	津川主一
3. 金髪のジェニー	清水脩
4. 草競馬	津川主一
5. ケンタッキーのわが家	清水脩
6. 夢路より	津川主一



フォスターは、1826年7月4日、ペンシルヴァニア州ローレンスパークの裕福な家庭に生まれた。子供の頃から音楽的才能を發揮し、18才のとき処女作「恋人よ、窓を開け」を作曲し、さらに友人たちと作った男声コーラスグループのために「おお、スザンナ」を含む多くの曲を作曲した。

彼は1850年、ジェーン・マグダウェルと結婚した。「金髪のジェニー」は、豊かな金髪と大きな茶色の瞳をもった彼女を歌ったもので、結婚4年後につくられた。

彼は幸福な結婚生活の中で、数々の名曲を作ったが、その代表作の一つに「草競馬」がある。この躍動的な曲は、苦しい生活をおくる黒人たちの間で明るい救いの歌としてさかんに歌われた。フロリダを流れる小さな河から名前をとった「スワニー河の歌（故郷の人々）」もこの頃の作品である。

1852年の春、幼年時代の思い出の地、ケンタッキー州バーズ・タウンの従兄の家を訪れた。そして、その当時を思い出して「ケンタッキーのわが家」を作曲したのである。

フォスターは、その生涯に188曲の歌を書いたが、今日、世界中の人々に親しまれている名曲の多くは、20代の半ばから後半にかけての数年間につくられたものである。しかし、晩年にも「オールド・ブラック・ジョー」やあの美しい旋律をもつ「夢路より」を作曲し、1864年に38才の短い生涯を閉じたのであった。

## 第3ステージ

### 混声合唱組曲「おかあさんのはか」

この曲の古田幸さんの詩は、講談社から出版された詩集「おかあさんのはか」から抜粋されたものです。小学校6年生の時突然おかあさんを失った幸ちゃんが、悲しみの中にもしっかりと立ち上がり、ある時は明るく、ある時は願いをこめておかあさんに語りかける詩が全12曲で構成されて1つの組曲はなっています。

「おかあさんのはか」全曲は、ダーク・ダックスの第9回リサイタル（1965年度）の時に、「山に祈る」「眠れぬ魂」の2つの合唱組曲に次ぐ第3弾として初演されました。曲はどなたにでもわかっていただけるやさしいもので、皆様の中でお1人でも多くの方がこの曲に感動されることを、そしてさらには詩集「おかあさんのはか」を読んで下さることを願っております。

# おかあさんのはか

吉田 幸作詞

## 1 語りの音楽

### 2 じんちょうげ

げんかんの戸を開けたら  
プーンといいにおい  
あっ じんちょうげだ  
いつのまにさいたの  
おかあさんが死んでから  
うら口からばかり  
出はいりしていたので  
少しも気がつかなかつた  
おかあさん  
おかあさんのすきな  
じんちょうげがさいたよ  
私はげんかんの戸を  
いっぱいあけた

### 3 すきやき

私の一番とくいな料理は  
すきやき  
かんだんで  
うち中 みんなすき  
一週間に一度はする  
白いヘッドで  
なべをジャージャーやいて  
ねぎに しらたきに やきどうふ  
牛肉の色が  
うす土色に変わったとき  
私は つまみぐいをする  
とってもおいしい  
私はこのときの味がすき

### 4 おかあさんのはか

おかあさん  
のう出血で死んじゃって  
ばか  
おにいちゃんは スキーに  
おとうさんは 学校に  
いっちゃった  
みゆきはひとりぼっち  
おかあさんのすきな  
おもちがとどいたのよ  
おかあさんは  
おもちをきるのが

とってもじょうずだった  
おかあさんのはか

5 おにいちゃんの成績  
おにいちゃんの父兄会に  
おとうさんが出た  
おにいちゃんは  
午前中で帰ってきたが  
なんだか 落ちつかない  
やっぱり  
あまり成績 よくなかった  
よるおそくまで  
勉強していたのに  
かわいそうだな  
おにいちゃんは  
こんどこそがんばるぞ とは  
いってるけれど

### 6 白いカーネーションはいや

きょうは母の日  
きょねんの母の日には  
お料理の上手な  
おかあさんに  
エプロンと  
赤いカーネーションをあげた  
おかあさんが死んじゃった  
ことしほ  
白いカーネーションが  
ほんとうだけど  
私はいやよ  
白いカーネーションは  
みるのもいや  
赤いカーネーションを三本と  
一番さきにさいた  
庭の赤いバラの花を一つ  
私は さいだんに  
そなえた

### 7 バイオリン

初めてのバイオリンだった  
私は  
あまり練習していかなかった  
だから  
せんがあがつたり さがつたりして  
こまつてしまつたの

キーキー  
とてもいやな音  
なれてきたら  
ギーギーと  
うまくいった  
よかったです

### 8 雨のふる日

雨のふる日  
大きらい  
おかあさんが 入院してた時  
雨の日に  
ようだいが へんになった  
その時  
おとうさんは  
こどもみたいに  
声を出して 泣いたって  
水天宮さまの  
ぱちがあたったんじゃないかと  
おとうさんは いってたそうだ

雨のふる日に  
学校から帰ってくると  
シーンとしていて  
こわいみたい  
おとうさんが また  
思い出して泣いているんじゃ  
ないかと  
思うと よけいにかなしくなる

### 9 知能テスト

二、三時間目  
知能テスト  
私はいっしょうけんめいにやった  
でもやっぱりできないところが  
十以上あった  
みんなかんたんなものばかりなのに  
問題が なかなか早く読めない  
おわってから 頭のよい人にきくと  
「できたわ あんなのかんたんよ」と  
私の顔をみた  
くやしい  
その人の顔が おにのようみえた

## 10 七夕

こんやは たなばた  
また 雨空  
たなばたって  
どうしていつも晴れないのかしら  
夢でもいいから  
おかあさんにあいたいと思って  
となりのせっちゃんの  
ささに  
「おかあさん」とかいて  
たんざくをさげた

## 11 シーツ

よごれていた  
うちじゅうのシーツを  
ぜんぶあらった  
早めにふとんをしいて  
みんなのシーツをかけた

太陽のにおいが  
へやじゅう ぶんぶんした  
はだかで  
その上に ゆうゆうと  
ねそべったら  
とってもきもちがよかったです

## 12 おくり火

夕食のあと  
げんかんで  
おくり火の用意をした  
おむかえ火のとき  
おじいちゃんが  
おがらの火を見てないていた  
おくり火は  
私たち五人でやった  
おにいちゃんも 私も  
だまつたまま  
おさらの上の火を見て

なきそうになった  
おとうさんは  
なかなか  
うちの中へはいってこなかった

## 13 教会の神様

おかあさんが死んでから  
さびしい日が多い  
おとうさんやおにいさんは  
神様なんていないというけれど  
私はやっぱり神様をしんじる  
教会へ来てよかったです  
神様に聞いてほしいことが  
いっぱいある  
神様に力になってもらいたい  
こともある  
教会へ行くと  
私はおかあさんにあえるような  
気がする

## 「おかあさんのはか」について…………ダーク・ダックス

子供達の作る詩に感動をうけて、「子供達の歌」シリーズを続けましたが、この「おかあさんのはか」は、その一連の作品の中の1つです。1965年の私達の第9回リサイタルで発表したものです。

作者古田幸ちゃんは、当時小学校6年生で、その後も私達の演奏会のたびにかけつけて下さいました。年一年立派に成長されて、「私は立派な正しい人になって、おとうさんを助けます」という言葉をちゃんと果して下さいました。

このたび、楽友会の皆様が私達の企画の作品を歌って下さるのは、大変に嬉しいのです。私達はアマチュアの合唱団に合唱曲を提供するのを、そのつとめの一つとしているからです。美しく、正しく歌いあげて、聴衆の皆さんに感動をあたえてあげて下さい。

# こ の 1 年

〔誘惑の季節〕 日吉に三田に春が来ました。新入生勧誘に半ば気の狂った上級生の行動を見てみましょう。女子高生は男子の新入生狩りに、親にも隠しとおした色気をここぞとばかりにふりしぶって悪戯苦闘し、自意識過剰の男子高生も匂ってくるような男っぽさを強調して、女子新入生獲得に精を出しています。それでもその気になって1人2人と新入生が集まっています。



〔国際親善の季節〕 4月の下旬には来日中のアメリカのハイスクールの男声合唱団との交歓会が女子高で行なわれ、私達もメンデルスゾーンの「緑の森よ」など4曲を歌いました。男子高生は身長はともかく、座高に関してだけは優越感にひたって泣いて喜んだ1日でした。

〔親睦の季節〕 雨の多い季節になりますと、1年生も合唱することの喜びにやっと目覚めてきます。そして、その頃始まったばかりの文化祭へ向かっての練習の合間に新入部員歓迎会が催されます。今年も1年生からは「あの先輩アレでも18才なんですか？」という声が聞かれました。

〔減量の季節〕 夏休み、暑さの中での1日5時間という地獄の練習に耐えかねて、今年も7月24日より、涼しい清里高原で合宿を行なわれました。規則正しい合宿生活の中には1日7時間という練習のほかに腹筋体操などもあり、合宿後には女子高生の平均体重は数キロ減るとか減らぬとか……。帰りにはみんなの顔に、自然の中でおもいっきり歌ったという満足感があふれ、2ヶ月後にひかえた文化祭へのやる気をもりたてます。



〔文化祭の季節〕 10月にはいると文化祭の3本立て十月祭（女子高）、日吉祭、収穫祭（志木高）と3週間連続のハードスケジュールです。今年は教室、小講堂での楽友会単独の発表のほかに、昨年に引き続いてワグネル・ソサイエティ・オーケストラとの「夢の協演」も実現し、ヘンデル作曲の「ハallelujah」と、私達の大先輩である小林亜星さんの作曲による楽友会のオリジナル「青春讃歌」の2曲を演奏し、大曲のすばらしさを味わいました。

〔充実の季節〕 文化祭が想い出の1ページとして心の中に落ち着いてくると、私達を待ちうけるのは新たな目標、演奏会です。そして、この若人たちがやがて訪れる冬の木枯らしにも負けず、りりしくこの目標にぶつかっていきます。冬の寒さは私達の精神を充実させ、私達はこの時期に合唱の素晴らしいを改めて感じます。

〔感激の季節〕 ついに迎えた演奏会！ 今、皆さん前に立っている私達は、この1年、無心に純粹に歌うことの喜びを求めてきた仲間です。毎年毎年メンバーは変わっても、このクラブの求めるものはいつまでも変わりません。そして、この定演が終わると、1週間後にはまた新たな活動を始めるのです。

## パートから一言

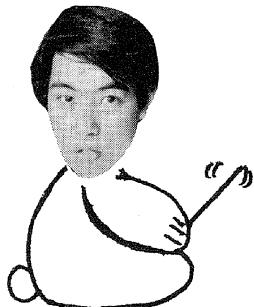
Sop.

3月21日付の楽友会新聞の隅っこに、ソプラノについての調査結果が発表されている。それによると平均年齢（精神=23才・実際=16.7才）、常に幼さを保ち、テナーの声量に負け、指揮者の要求には笑顔だけで応え、万事ひかえめで、歌う時にもなるべく後ろに下がろうとする…。しかし、これはあくまでも名目上。今やパートの中で最多人数。こわいものなし。嗚呼！花のソプラノ12人。今宵こそ花を咲かせます。ただし、100円で楽友会の券は買えますが、25円分のソプラノが聞けるのは限りません。あしからず。

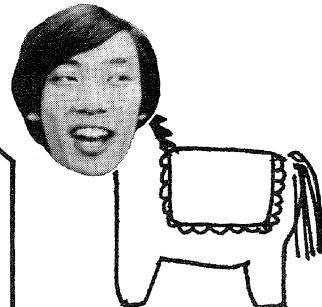
Alt.

そう、そこのあなた！旋律以外のパート、歌ったことありますか？いつも私達アルトはこの美しい（？）ハーモニーを生み出している陰の存在なのです。けれどたまには主旋律もあるんです。ー9人の乙女達はここぞとばかり美声をはり上げる。すると指揮者の目がチラリとこちらの方へ動きいつのまにか曲はストップ。あーあまたやっちゃった！他パートと比べて平均年齢の高い私達ですが、いつもこんなことの繰り返しのデス。多少ドジな面も持ち合わせていますがそれは愛嬌。本当は熱心で明るく素直な私達なのです。ヨロシク。

Cond.



こわいこわいおばあちゃんがたやおそろしいかいぶつどもににらまれて、ボクチャンはいつもひとりポッチ。ふだんおちょくられてばかりいるのできょうこそはふくしゅうしようとバチをもつてはげしくていこう。でもボクチャンはかよわいのです。がっちょうどんだんのばせいをあびておいつめられるボクチャン。もしぶたいからおっこちそうになったら、だれかたすけてくらはい。



楽友会は近年、テナーという発作性音程不安定症を併發せるガンに病んでいる。これは練習に熱のはいつたころに発作が始まり、音程の低下と呼吸の乱れがその初期症状とされる。さらにパート練習等の暫定的治療法を用いたりすると、拍子不感症及び精神錯乱が発現し、その相乗効果によって理性を失う。こうなるともはや、何千回とオペをしてもその効果は無に等しい。たいていの合唱団はこの辺で息をひきとるのであるが、我が楽友会は長きにわたった闘病生活に打ち勝ち、本日のステージに立つのである。発作再発の危険を抱きながら……。

夫れ天地は萬物の逆旅にして、光陰は百代の過客なり。  
而してこの一年は夢の若し、合唱すること幾何ぞ。古人燭を取りて夜歌を歌う、良に以有るなり。思へば一年、能く精誠を以て歌う一声部12人。他声部を排し必死に歌うこと狂人の如く、天に昇り地に入りて合唱の神髄を求むること遍し。況んや陽春の演奏会我らを召くに煙景を以てし、大塊我らに假すに合唱を以てするをや。

Ten.

Bas.

### 3年生紹介

#### 小川弥生

歌、指揮、伴奏と3拍手そろっており、沈着冷静かつ頭脳明晰、そして魅力的……と私は信じ、彼女を心から尊敬していた。が、その清い憧れも某3年女子からの情報によってもろくも崩れ去った！さて、あばかれた彼女の本性とは？ナイショ！

#### 西村雅江

よき嫁さん、または家政婦さんをお探しの方に楽友会が自信と責任を持って推薦するのがこの人。多才でしっかり者、思いやりがあり料理に裁縫何でもこい。からかうとむきになって言い返してくる様が至極愛らしく……委細面談。御希望の方は終演後楽屋まで。

#### 小野薰子

長唄を趣味を持ち、よく食べるわりにはあのスマートな体型に異変がおこらない。1年間のアメリカ留学の為か、足の長さに対する感覚があちら的になり、男子部員の姿を見るのが苦痛らしい。かわいそうに……

#### 頭川妃穂

ズカワヒスキー高貴な響きに満ち溢れた名前のとおり、清純で美しく一途、そして辛抱強い。乙女という言葉は彼女の為に神が造りたもう……（おわび：筆者と頭川嬢の間で黒い金が動いた疑いが濃い為、中断させて頂きます。深くおわび申し上げます。編集長）

#### 鈴木宏子

とにかく外も内も「かわいい」の一言に尽きる人。不思議と人を暖かい気分にさせるので、新暖房器として売り出そうという陰謀が貧困に苦しむ部員の間で渦巻いている。顔を時折バラ色に上気させる発作が原因で、桑本嬢同様、女子の恰好の攻撃目標となっている。

#### 河西優子

男まさりの勇気と根性を持ち、なかなかのやり手の彼女には、男子の軽い頭も上がらない（？）会計として部員からお金を絞り取る際に、1人ウキウキ踊り出すという救い難い病に冒されており、平生は明るく魅力的な人だけになんとも不憫でならない……。

#### 桑本多希子

音感と食欲の神様。ある種の話をしだすと止まることを知らない危険人物だが、最近することが原因で華麗なる変貌を遂げ、嫉妬と羨望に満ちた女子部員に突かれているが、何を言っても動じず、皆の攻撃意欲を「アハハ」の一言でひねりつぶす恐るべき女性。

#### 坂上由美

人間のものとは思えない音域の広さと音量の持ち主。年齢を疑いたくなる程に無邪気で明朗快活、弟さん思いの優しい人である。赤い色を異常に好む為、街中を消防自動車で走りまわる危険が予想され、彼女の免許獲得に対する懸念の声が部内で高まりつつある。



高山 阿波田 高橋 斎藤 近藤  
小野 小川 河西 坂上 桑本  
頭川 西村 鈴木 上田

#### 上田衛門

テナーのメインコンピューターである彼の名は「えいもん」と読む。この名は彼がサイモン and ガーファンクルのファンであるため、「えいもんとがあふあんくる」を意識してつけた、という話は聞いたこともない。

#### 高橋治之

知っている人しか知らない志木高の怪人。ベースからトップまでこなす住所不定の方。人間とは思えない様な奇行の数々にもかかわらず信頼を集めてきたのは、彼の豊かな人間性と音楽性のためだろう。

#### 斎藤良治

楽友会の責任者として、ベースの大黒柱として、寝食をも犠牲にした3年間……。何も知らない1年生は私に聞きます。「斎藤さんはどこへいったかったの？」私は空を仰いで答えます。「斎藤さんはね、お空の星になっちゃったんだよ。」何んじゃ、こりやア？

#### 阿波田尚

楽友会一の巨漢で、指揮者兼会計のバリトン大魔王。楽友会の大蔵大臣であるだけに拝まれることが多かったが、部費徴収への彼の飽くこと無き執念は滞納者をことごとく震えあがらせた。

#### 近藤敏康

本年度只1人ウルトラ・ベースを襲名。大変ユニークな方なのでその諸行を述べるのは私の能力に余ります。とにかくオーディオとデザインには相当うるさく、女子高には自転車でやってきて……アハアハ。

#### 高山和正

千葉に本拠を構えるバリトンの総統。恐るべき教養の持ち主であるため、時々凡人には解し得ない特殊言語を口走る。渉外の伝統を守り抜き、次期役員の狂育に力を注いだ功績が高く（？）評価されている。

## 歩み

〔昭和23年〕 楽友会の前身である音楽愛好会が発足し、男声合唱を行なう。設立者は現男子高楽友会部長の岡田忠彦先生。

〔昭和25年〕 慶應義塾女子高校が創立し、それとともに女子高音楽愛好会が発足。男子高音楽愛好会と提携し、混声合唱団として活動を始める。創立を機にハイドン「天地創造」全曲を演奏し、以後の楽友会における宗教曲演奏の礎となる。また、当時N響の合唱曲演奏に男声が不足していたため常時参加し、第9、ミサソレムニス、マタイ受難曲等の大曲に接し、幸運な発展を続ける。

〔昭和27年〕 高校OBの働きで高校・大学合同の慶應義塾楽友会が正式に結成される。常任指揮者として岡田忠彦先生を迎える、以後宗教曲を中心に定期演奏会を開くが、昭和40年に至り高校は参加を遠慮する。そのころの主な演奏曲目は、ヘンデル「メサイア」、モーツアルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、ケルビーニ「レクイエム」、ベートーヴェン「第9交響曲」等である。

〔昭和31年〕 それとは別に加盟していた「私立高校音楽連盟」を脱退し、同じく脱退した早稲田大学高等学院グリークラブ、共立女子高等学校音楽部と共に「三高校合唱サークル」を結成し、同年10月第1回合同演奏会を開催したが、昭和39年に至り、事情により解散した。

〔昭和39年〕 高校楽友会単独の第1回定期演奏会を開催。以後毎年1回の定期演奏会を行ない、今日に至る。このように幸運な発展を続けている楽友会も、来年は男子高音楽愛好会創立以来30周年をむかえる。なお、第1回定期演奏会からの演奏曲目は下記の通りである。

## 演奏会記録

第1回 「ロマンスとバラード」より 組曲「長崎の祭り」 その他	シューマン 森脇 憲三	第7回 混声合唱組曲「筑後川」 メンデルスゾーン合唱曲集より その他	團 伊玖磨
第2回 混声合唱のための組曲「藏王」 混声合唱組曲「水のいのち」 その他	佐藤 真 高田 三郎	第8回 合唱幻想曲 合唱詩曲「花と愛と」 その他	ベートーヴェン 服部 克久
第3回 混声合唱のための組曲「旅」 メンデルスゾーン合唱曲集より その他	佐藤 真	第9回 混声合唱組曲「水のいのち」 ジプシーの歌 その他	高田 三郎 プラームス
第4回 カンタータ「土の歌」 中田喜直女声合唱曲集より 男声合唱組曲「四月の顔」 その他	佐藤 真 林 宏太郎	第10回 カンタータ「土の歌」 ミサ・ブレヴィスK.194 メンデルスゾーン合唱曲集より	佐藤 真 モーツアルト
第5回 合唱組曲「自然の歌」 サウンド・オブ・ミュージックより 合唱組曲「風と花粉」 その他	ドヴォルザーク 大中 恩	第11回 混声合唱のための組曲「旅」 ミサ曲第2番ト長調 組曲「都会」 その他	佐藤 真 シューベルト 中田 喜直
第6回 スタバト・マーテルより（女声合唱） ドイツ学生歌集（男声合唱） その他		第12回 混声合唱組曲「心の四季」 ミサ・ブレヴィスK.220 混声合唱「風紋」 「花笛」他小品4曲	高田 三郎 モーツアルト 石井 敏 大中 恩

## メンバー

[Soprano]

小川弥生  
西村雅江  
小野薰子  
頭川妃穂  
石川節子  
広瀬晴美  
村上百合  
中田由佳里  
田中美枝子  
手塚厚子  
安田撰子  
安村典子

[Alto]

鈴木宏子  
河西優子  
桑本多希子  
坂上由美  
原田いづみ  
小林郁子  
酒泉道子  
武田康子  
高野敦子

[Tenor]

上田衛門  
高橋治人  
花島誠一  
平井昭光  
梶井正剛  
茂木和剛  
柳原正孝  
池田孝文  
清野修一  
田幡克介

[Bass]

斎藤良治  
阿波田尚敏  
近藤康和  
高藤正裕  
近椿知裕  
蟹山智和  
瀬川真人  
井川眞正  
浪川人男  
前田毅泰  
大森和須

### 編集後記

編集長、私の成績かえして！

編集長、貴方のおかげで夜歩きのくせがついたしまった！

編集長、欠課170でよく上がれたねえ！

編集長、ロバって馬の足を短くしたやつってホント？！

編集長って変醜長のことだったのね！

編集長、やったやった！ 上がった！

編集長、おしい！ もうちょっとだったのに？！

(Rock & Push)

(模範生のお手伝いさんより)

(模範生の総務より)

(旧称ピゴちゃん)

(次期編集長より)

(涙の編集長より)

(編集長を除く編集委員一同)

本日は、誠に有難うございました。

表紙	花島誠人
チケット	花島誠人
カット	小林郁子
	西村雅江
	花島誠治
編印	高橋青之社

БІОКЕМІЯ

